

東京第一会計ニュース

2014(平成26)年9月1日発行

No.100

CONTENTS

末広会総会のご案内

顧問先紹介【有限会社 アキ企画】

職員紹介

編集部コラム

経営学入門

雑学入門

秋

いしづえ





今年6月6日にフランスでノルマンディー上陸作戦70周年記念式典が行われました。

第2次世界大戦で連合軍に大きな転機をもたらした作戦ということもあり、一帯はお祝い一色のムードになるそうです。しかし、実際に最前線で作戦に参加した人の話では、二度と思い出したくない惨状でとても祝える気持にはなれないそうです。ただ、前者後者に共通する願いは「平和」であることに違いないのです。

さて、日本では来年8月15日に終戦70周年を迎えます。集団的自衛権について、政府の憲法解釈変更のみで行使できるように閣議決定されました。果たしてこれが平和への道するべとなるのか、議論は尽きないことと思われます。

日本国憲法の3原則の一つである平和主義に抵触しているわけですから、憲法改正の発議と同等に扱われてもよさそうですが、今のところその様子はなさそうです。

解釈論のみで憲法ですら本意を曲げられてしまうということをさることながら、時の政権の意向次第でどんなことも起こりう

るという前例を作り上げてしまいそうでなりません。

ここで、1985年、当時西ドイツ大統領であつたワイツゼッカーの演説より一部を抜粋してご紹介したいと思います。

「罪の有無、老幼いすれを問わず、我々全員が過去を引き受けねばならない。全員が過去からの帰結に関わりあつており、過去に対する責任を負わされているのである。

過去に目を閉ざすものは結局のところ現在にも盲目となる。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険にも陥りやすいのだ。

若い人たちにかつて起こったことの責任はないが、その後の歴史の中でそうした出来事から生じてきたことに対する責任がある。若い人たちにお願いしたい。他の人々に対する敵意や憎悪に駆り立てられることのないように。敵対するのではなく、たがいに手を取り合って生きていくことを学んでほしい。」

70年という時の中での記憶はどんどん風化してゆくものです。

しかし、風化させてはいけない記憶というものもあるのではないかでしょうか。

私たちの仕事では、憲法を頂点とした法体系の中で主に税法と密接なかかわりを持つっています。

先ほどご紹介した憲法解釈と同じく、課税庁に有利な法律解釈、または、法律そのものの変更がなされてきています。

国民からの幅広い意見を取り入れず一部の人の意見を以つて全体の総意のように思われるところも腑に落ちない点です。

年内には消費税率10%への引き上げをするかどうかの検討が行われます。前回同様、政府主導の短期的な景気対策による上昇で判断するというようなことがなされてしまうのでしょうか。今回は消費税率8%の影響で駆け込み需要が少なからずあつたため、前年比では消費が上向いて見えることでしょう。

ただし、このことを以つて景気が良くなるたとすることは、本来あるべき姿ではないと思えてなりません。

経営学入門

→相手の思考回路を見極めよう

皆様は「Pタイム」「Mタイム」という時間概念を「存知でしょうか。これは、アメリカの文化人類学者、エドワード・ホールが著書「Beyond Culture」で論じた考え方です。そこでは、時間概念が仕事においてもプライベートにおいても、人と接する上で有効な指標として、次のように紹介されています。

① Pタイム型

Polychronic Time（多元的時間）の略で、時間軸が二つ以上あり、複数のことが同時に起こると捉える思考回路を指します。行動パターンとしては一度に多くのことをする傾向にあります。例えば、旅行をする際に無計画になんとなくふらっと出かける人間がこのタイプと言えます。

② Mタイム型

Monochronic Time（单一的時間）の略で、時間軸が一つで、物事というものは一つずつ順番に起こると捉える思考回路を指します。行動パターンとしては一度に一

つのことのみに集中する傾向にあります。旅行をする場合に、スケジュールをきちんと立てて出発する人間がこのタイプに該当します。

	Pタイム型	Mタイム型
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 他人の時間軸に合わせることができるので、感情豊かで主観的な思考を持つ スケジュールよりも相手との人間関係を優先する 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの時間軸で順序を決めて物事に臨み、論理的で客観的な思考を持つ 相手との人間関係よりスケジュールを優先する
長所	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係を大切にする 寛大・同時に色々できる 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に正確 計画的・几帳面・熱心
短所	<ul style="list-style-type: none"> 人に迷惑をかけてしまう いい加減・約束を忘れる 	<ul style="list-style-type: none"> 神経質・怒りっぽい 一つのことしかできない

余裕をもつて物事に臨む傾向にあります。そ

のため、色々な仕事を同時にこなすことが得意です。全体を見渡すのがうまく、統一性のある仕事ができる反面、一つ一つの仕事の完成度が劣る場合があります。

一方、Mタイム型人間は時間軸が一つなので、一つの物事に対して職人的な集中力を發揮して完成度の高い仕事をこなします。しかし、急を要する能力以上の仕事を頼まれるとパニックに陥り「できない」と判断してしまう可能性があります。つまり、適量の仕事に対してもは時間を守ってしっかりと仕事をする人材と言えます。

以上のことから、Pタイム型発想（人望があり寛大な発想を持つ）で、Mタイム型行動（信頼できる行動）をとることのできる人間はビジネスの世界では必要な人材であると言えるかもしれません。逆に、Mタイム型発想（緻密な職人技を磨くべく修行する気持ちを持つ）でPタイム型行動（形にとらわれない自由な活動）をとる人間は芸術家や科学者の世界で活躍できると言われています。いずれにしても、日常生活の中で相手がどのような思考の持ち主なのかをきちんと見極めて接することが、良好な人間関係を築くために有効な方法の一つといえそうですね。

雑学入門

9月に入つても厳しい暑さが続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。暑いとつい冷たい飲み物が飲みたくなりますね。特に仕事終わりのビールは格別の味わいです。

さて、ビールなどのお酒を堪能した後、締めにラーメンを食べたくなることがあります。

なんか。

そこで、今回はお酒を飲んだ後について食べたくなつてしまふラーメンについて解析したいと思います。

どうしてお酒を飲んだ後は、ラーメンが食べたくなるのか？

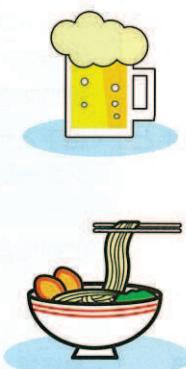
寝る前にものを食べてはいけないといつも、ついついやつてしまふのが「一杯飲んだ後のラーメン」です。

これは、ラーメン屋から漂うにおいのため：ということだけではなく、もつと生理的な理由があります。

アルコールは、体内に入るとほかの食品よりも優先的に消費されてエネルギーになります。体内に入ったアルコールが肝臓に運ばれ、

炭酸ガスと水に分解され体外に排出されます。この分解を行う際の肝臓のエネルギー源はブドウ糖で、お酒を飲むと血液中の血糖値が減少します。血糖値が下がると脳は空腹を感じます。

また、アルコールの影響により身体は軽い脱水症状となるので身体は水分を求めます。ラーメンは、麺が炭水化物、スープは水分という構成のためまさにうつつけのメニューとなります。



また、日本人がよく飲むビールにはカリウムが多く含まれています。身体は体内のカリウムとナトリウムのバランスを保とうとするためカリウムが過剰になるとナトリウム（塩分）を欲するようになります。

これがお酒を飲んだ後ラーメンを食べたくなる理由なのです。

ただし、つまみをたくさん食べた人は締めのラーメンを食べたりすると、結果的にカロリーオーバーとなってしまうこともあります。

アルコールは、体内に入るとほかの食品よりも優先的に消費されてエネルギーになります。体内に入ったアルコールが肝臓に運ばれ、

編集後記

9月になりました。食欲の秋と言われますが、体調管理にはより一層気をつけたいものです。

皆様は、100歳を超えて長生きした有名人の中でジャンヌ・カルマンという女性をご存知でしょうか。彼女は、ギネスブックで世界一の長寿者に認定された女性です。1875年にフランスで生まれ、生前のゴッホに会ったことのある女性としても注目されました。享年122歳でした。

彼女の食生活を調べてみると、大好物は赤ワインとショコレートで、大変驚くことに彼女は1週間に1kgのショコレートを食べていましたとも言われています。注目したいのは、それらに含まれるポリフェノールの抗酸化作用です。アンチエイジングに抗酸化物質が重要な役割を果たすことは最近注目されています。

また彼女曰く、長寿の秘訣は「笑うこと」「退屈しないこと」だそうです。彼女は常に前向きで、興味のあることには積極的に挑戦し、乗っていたそうです。人生を楽しもうといふ彼女の姿勢が肉体的にも精神的にも健康でいられる秘訣といえそうですね。

実はこの稿も今回で発刊100号となりました。これも皆様の支えがあつてこそと感謝しています。今後も有意な情報を皆様に発信していくよう尽力していきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

